

## 理事・監事会議事録

1. 開催場所 青森県青森市中央一丁目 11 番 18 号 ラ・プラス青い森 会議室
1. 開催日時 平成 27 年 8 月 10 日 午後 12 時 30 分
1. 理事数 6 名
1. 監事数 1 名
1. 出席理事・監事数 5 名 (理事：濱崎正明、佐賀平一郎、小山内良一、森山裕三、 監事：一戸治)

代表理事濱崎正明が議長として本会の進行を務める旨を述べ議案の審議に入った。

### 第 1 号議案 平成 27 年 4 月から 7 月までの事業報告

議長より、平成 27 年 4 月から 7 月までに行った事業につき、資料を配布し、その報告を行ったうえで、議場に諮ったところ、出席者全員異議なく承認した。

続いて議長より、平成 27 年 7 月までの経理報告書を配布のうえで、その説明を行い、議場に諮ったところ、出席者全員異議なくこれを承認した。

### 第 2 号議案 研究テーマ (大湊興業株式会社)

議長より、今後の研究テーマとして、大湊興業株式会社について研究を進めていきたい旨提案があり、次のように説明を行った。

大湊興業株式会社は我国近代史に於ける未踏のテーマであり、後世に残しておくべきテーマであってみれば、これをデジタル化しておく必要がある。テーマの内容としては、同社の設立は我国と大陸を結び付け、日本海の制海権を確保し、兵站補給を疑いないものにしたうえで、日露戦争後の太平洋の米国の圧迫に備えようとした目的に負う。これを表面には出さず、開港という目的を示し、展開した鈴木誠作らの青写真は素晴らしいものがある。また、この設立に賛成人として名を連ね、また株主として名を挙げた人々約 2,000 名近くは、当時の各界を代表する人達である。同社の研究という大きなテーマは専門家に委ねるとして、これらの人々、個人のプロフィールを積み重ねることは大きな意味があると考え。同時に、これらの人々の相関関係をも判る範囲で作成しておくことに、特別の意味を見出す。これまで歴史研究家が行ってこなかった領域を作り上げることにもなり、価値ある事業になると考える。

説明終了後、議場に諮り意見を求めたところ、出席者全員異議なくこれを承認したため、当財団で支援をすることに決定した。尚、支援の仕方等については、今後検討し、進めていくことになった。

第3号議案 博物館・図書館の開設準備と大湊興業株式会社からの建物の寄附  
議長より、当財団の事業活動として、博物館・図書館の併設を行いたい旨提案があった。資料を配布したうえで、大湊旧郵便局舎約 800 坪の土地と約 800 坪の延床面積の建物を当財団が寄附を受け、博物館と図書館にしたうえで、当財団の住所地にするのはどうかと述べた。これに対して、理事から課税の問題や県との関係についてはどうかとの意見があった。

議長は、県の見解として、事業化に関しては全く問題がないこと、唯、時間的に半年から 1 年かかるであろうとのことで、これについてはクリア出来ることを説明した。

説明終了後、議場に諮ったところ、当財団にとっても有難い話であるということで、出席者全員賛意を表し、承認された。

以上をもって本日の理事・監事会の議案審議が終了したので午後 13 時 30 分に閉会した。

上記の決議を明確にするため議事録を作成し、出席理事、監事全員が記名押印した。

平成 27 年 8 月 10 日

公益財団法人地域開発研究所

議長 代表理事 濱崎 正 明 ㊟

理 事 佐賀 平 一 郎 ㊟

同 小山 内 良 一 ㊟

同 森 山 裕 三 ㊟

監 事 一 戸 治 ㊟